

氏名	久 峰
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 2138号
学位授与の日付	平成13年3月25日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学(二)専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Sulfidopeptide Leukotrienes, but not Thromboxane B ₂ or Histamine, Are Elevated in Sputum during Exacerbation of Asthma (喘息増悪期における喀痰中、トロンボキサン B ₂ 或いはヒスタミンではなく、サルフィドペプチドロイコトリエン濃度が上昇した)
論文審査委員	教授 横野 博史 教授 中山 睿一 教授 五味田 裕

学位論文内容の要旨

Sulfidopeptide-Leukotriene (sLTs)は喘息の病態における重要な物質であると考えられるが、喘息の増悪にどのように関わっているか未だ完全に解明できていない。一方、Thromboxane(TX)とヒスタミンも喘息発症のメカニズムに重要なメディエーターである。この研究は喘息患者喀痰中の sLTs 及び TXB₂ とヒスタミンの濃度を検討し、喘息の増悪におけるこれらのメディエーターの関与を解析した。3%高張食塩水の吸入により喘息及び健常対象者から誘発喀痰を収集し、この喀痰より HPLC でメディエーターの分画を採取し、EIA キットを用いて、各メディエーター濃度を測定した。発作のない安定期では喀痰中濃度は、健常人に比し喘息群において高い傾向にあるが、有意差はなかった。アトピー型と非アトピー型の比較では、sLTs 及び TXB₂ 濃度は差を認めなかったが、ヒスタミン濃度ではアトピー型の方が有意に高かった。sLTs の喀痰中濃度は安定状態に比し発作時に有意に上昇した、しかし、TXB₂ とヒスタミンでは有意差を認めなかった。この結果は、sLTs が喘息のメカニズムにおいて重要な役割を担っている可能性を示唆するものであると考えられる。

論文審査結果の要旨

Sulfidopeptide-Leukotriene(sLTs)は喘息の病態における重要な物質であると考えられるが、喘息の増悪にどのように関わっているか未だ完全に解明できていない。

本研究は喘息患者喀痰中の sLTs 及び Thromboxane(TXB₂) とヒスタミンの濃度を検討し、喘息の増悪におけるこれらのメディエーターの関与を解析したものであるが、sLTs の喀痰中濃度は安定状態に比し発作時に有意に上昇した。しかし、TXB₂ とヒスタミンでは有意差を認めなかった。この結果は、sLTs が喘息のメカニズムにおいて重要な役割を担っている可能性を示唆するものであると考えられ、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。